

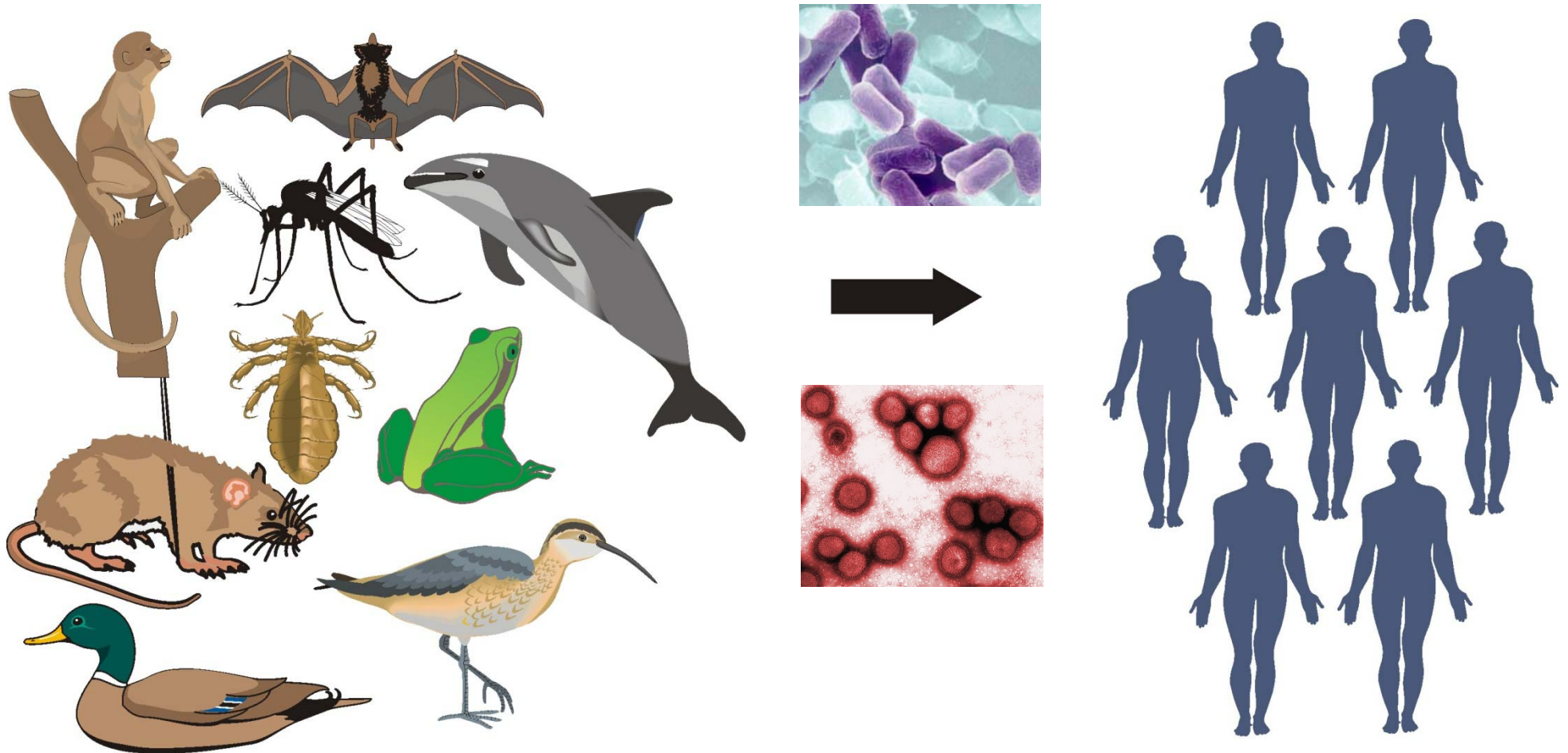
人獣共通感染症

並びに

新たな医療分野の研究開発体制

東京大学
医科学研究所
河岡義裕

人獸共通感染症 (zoonosis) ≡ 新興感染症 (Emerging infection)





'77カンピロバクター脳炎

'86ウシ海綿状脳炎

'88サルモネラPT4

'77ハンタウイルス

腎症候性出血熱

'88E型肝炎

'77ビブリオ・フルビアス

ファーニシ感染症

'80D型肝炎

'93シクロスポラ症

'93ネコひっかき病

'95GBウイルス肝炎

'80ヒトT細胞

リンパ腫

'87劇症型溶血性

レンサ球菌感染症

'81中毒性

ショック症候群

'81エイズ

'82ライム病

'89C型肝炎

'03重症急性呼吸器

症候群 (SARS)

'92コレラO139

'99ニパウイルス感染症

'73ロタウイルス下痢症

'96VRE

'91ベネズエラ出血熱

'83ヘリコバクターピロリ感染症

'77ペニシリン耐性

肺炎球菌感染症

'94ヒトおよびウマ麻疹ウイルス感染症

'94ブラジル出血熱

MERS-CoV



H7N9



人獣共通感染症 (zoonosis) ≡ 新興感染症 (Emerging infection)

- 今後、益々、重要
- 引き続き、厳重な監視と先回り対策が必要

新たな医療分野の研究開発体制

何をするのか？

意見聴取した領域の開発研究

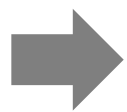
原資は？

疾病領域ごとの取組

臨床研究・治験への取組

世界最先端の医療の実現に向けた取組

医薬品・医療機器開発への取組



上記プロジェクトが終了したあとに
何を本気でやるか？

新体制の理念は？

新たな医療分野の研究開発体制

「医療のマンハッタン計画」

1. 明確な実用化目標
2. 実績のある研究代表者の強力なリーダーシップ
3. 潤沢な研究開発費



早期（5年～10年）の実用化を目指した研究開発

新たな医療分野の研究開発体制

どのような仕組みで動かすか？

独立行政法人設立+00？

徹底的にやるのか、できる範囲でやるのか？

時間的余裕がない（来年の通常国会で正式決定）
大々的な組織改編を行うには機が熟していない



組織の再編成は限定的

新たな医療分野の研究開発体制

組織構成

独立行政法人

- 研究開発費助成業務
- 研究開発支援業務*
 - ハード（実験動物施設、GMP施設など）
 - ソフト（臨床試験、認可のノウハウ、信頼性保証体制などの提供）

基礎研究



開発研究



臨床試験

→ 実用化

- 実験室レベルでのProof of Conceptの確立
- 臨床試験に向けてのGMP施設での研究開発
- 臨床試験

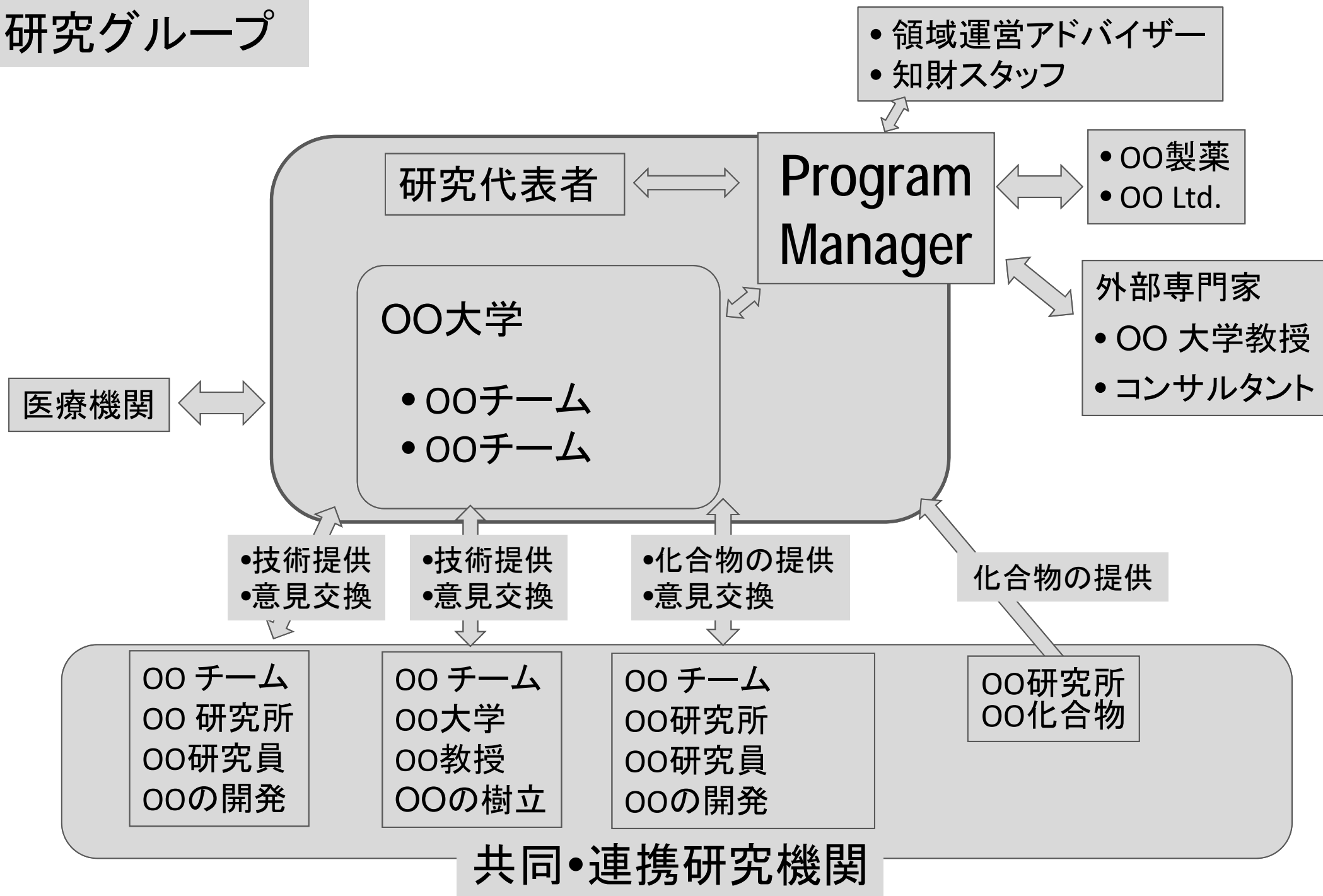
研究グループ（バーチャルな組織）



（人材育成）

* 米国NIHは、近年、研究開発のサポート機能を強化している。

研究グループ



新たな医療分野の研究開発体制

「医療のマンハッタン計画」

1. 明確な実用化目標
2. 実績のある研究代表者の強力なリーダーシップ
3. 潤沢な研究開発費



早期（5年～10年）の実用化を目指した研究開発